理事長報告

理事長　白井 祐哉

忘れもしない令和２年２月２７日，時の安倍総理大臣が，全国の小・中・高等学校及び特別支援学校等に対し休校を要請したことが報道された。
その日は，当団体の異業種交流会という事業の前日であった。
それまではどこか対岸の火事であった新型コロナウイルスの影響が，ついに障害となって目の前に立ちはだかったのである。

様々な葛藤があったが，結果として異業種交流会は中止の決断をした。
「できない」のではなく，「やらない」。
私の青年会議所活動において初めての経験であった。

それから，激動の一年が始まった。

「Ｓｔａｒｔ　Ａｇａｉｎ」をスローガンに掲げ，「「共育」と「地育」により，選ばれるまちへ」，そして「互いの個性を理解し，一丸となって新しい呉ＪＣへ」という二つの基本方針をもとに走り出した２０２０年度。結果として計画どおりにいくことはなかった。

令和２年４月１６日，日本全国に対し緊急事態宣言が発令され，そして全国民が待ち望んでいた東京オリンピック・パラリンピックの延期も決定された。世の中に自粛ムードが蔓延する中，この新型コロナウイルスという未知の脅威に対し，我々は「明るい豊かな社会の実現」を標榜する団体として，どのような態度をとることが正解なのか。
いくつのもの協議を重ね，会員同士の意見のぶつかり合いもあり，一時は内部分裂したかのような危険な状態に陥ってしまっていた。

もちろん，感染拡大を封じ込めるためという一点に絞れば，動かないことが正義である。しかし，全世界が，日本全国が，そして呉のまちが危機に瀕しているこの時に，何らのアクションをしないという道を選んだとしたら，我々の存在意義はどこにあるのか。

われわれＪＡＹＣＥＥは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者　相集い　力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

これは，青年会議所の団体としての理念，そしてＪＣメンバー個人の運動目標である「綱領」である。
そう，我々は「責任を自覚し」，「英知と勇気と情熱をもって」，「明るい豊かな社会を築き上げ」ようとする団体である。そこに，目の前にある社会の危機に対し，やがて過ぎ去るのを黙って待っているということを選択する要素はない。

その基本理念に立ち返り，我々は行動することを選択した。

活動の詳細は各委員長の報告に譲るが，主に以下の事業を実施した。
もちろん，そのすべてにおいて，社会的要請に従い「３密を避ける」「検温・手指消毒を徹底する」など感染拡大を防ぐための措置は万全に行った。

コロナ禍で疲弊した飲食店を応援する事業，「呉飯（ごはん）チャレンジ」。
単にお金や物を寄付するだけではなく，外出自粛中の市民の皆さまに家庭での楽しみを提供しつつ，呉のまちをＳＮＳ上で盛り上げ，最終的に飲食店にお金が落ちる。当団体らしい公益的な視点をもったオリジナリティー溢れる支援事業であった。

バラバラになりかけたメンバーをつなぎとめ，活動の基盤を作るための例会の開催。
予定していたほぼすべての例会を実行することができた。インターネット会議システムによるリモート開催という新たな手法や，会場を分けての懇親会など，今までにない形での設営を次々に生み出していった。

自粛疲れにより相当のストレスをかかえてしまっている子供たち，そしてその保護者の方たちに，安全に，心から楽しんでもらえる場を提供する「ＧＯ ＴＯ パラスポーツ　～ｗｉｔｈコロナだから親子で安全に楽しもう！！～」。
対面型，集客型のイベントが軒並み中止になる中，世の中の変化にいち早く適応し，実行した，青年らしいスピードと感性を発揮した事業であった。

会員拡大・会員教育事業。団体内部の事業であるということもあり，開催の是非は常に問われることとなったが，この活動を行わないということは将来呉のまちに寄与する人材が減少することであり，呉のまちにとって損失となる。よって，様々に形を変えて実行した。

広報活動。活動を大っぴらに発信することが憚れる雰囲気の中，「我々の活動は不要不急ではない。」その思いで取り組む我々の活動を市民に報告し，そして外出自粛中だからこそ触れる機会の多いインターネットを活用して，呉の魅力を紹介する映像やコラムを公開した。

呉を広島県全体にＰＲする機会となる，広島ブロック大会の開催。こちらはインターネット上にて開催した。呉のまちに実際に訪れてもらうことは時期的に叶わなかったが，インターネット上において，広島の魅力を，呉の魅力をＰＲする内容の映像を作成し，拡散した。柔軟な発想と行動力で，どんな状況でも目的を達成する，我々の意地とプライドを表現した大会となった。

そして国際青年会議所の「ＪＣＩ　Ａｓｉａ　Ｐａｃｉｆｉｃ　Ａｒｅａ　Ｃｏｎｆｅｒｅｎｃｅ（アジア太平洋地区会議)」及び「ＪＣＩ　Ｗｏｒｌｄ　Ｃｏｎｇｒｅｓｓ（世界会議)」におけるＪＣＩアワードのダブル受賞という栄誉もあった。
我々の活動がアジアから，そして世界から賞賛を受けることで，呉というまちを全世界にアピールすることができた。

これらの事業は結果であり，それまでにインターネットを含む数多くの会議を行った。そして感染拡大の状況，市内感染者の有無，そして世の中のムードなどが目まぐるしく変わっていく中で，その都度頭を悩ませ，対応し，準備をし直すということも本当に多くあった。

しかし，いつしかそこに「活動しない」という選択肢はなくなっていた。

たしかに，所信に示した私の思い描いていた活動はできなかったかもしれない。しかし，これらのチャレンジを一年をとおして行うことができたことが，そしてそれらのアクションが直接的に，間接的に呉のためになったことが，それ以上に大切な当団体の存在意義というものを確かにした。そして，各事業の延長線には，私の理想とする呉のまちがある。このまちが，人生のＳｔａｒｔ　Ａｇａｉｎをしたくなる魅力的なまちであること。その理想に少しでも近づけた一年であったと確信している。

結びに，２０２０年，人類史上稀に見る過酷な年に，私の無謀ともいえる決断に対しこれだけの功績を残してくれたメンバーを誇りに思うとともに，我々の活動に関わっていただいたすべての皆様に心からの感謝を申し上げます。

一年間，当団体へのご支援，ご協力，誠にありがとうございました。

副理事長報告

副理事長　井田大敬

白井理事長の掲げる「Ｓｔａｒｔ　Ａｇａｉｎ」というスローガンのもと、副理事長を務めさせていただいた。２０２０年度が始まって間もなく、新型コロナウイルスという全世界を跨ぐ暗闇に覆われ、暗中模索という言葉がふさわしいと言える年となった。
そのような中、副理事長として担当したのは、縁！まちづくり委員会、呉ＪＣの輪総務委員会であった。
縁！まちづくり委員会では、コロナウイルスの流行により、呉市でも飲食店で外食する人が減少したことを受け、経済的ダメージを軽減する飲食店支援事業として「コロナに負けない！飲食店応援事業　＃呉飯チャレンジ」を行った。
本事業はどのような状況でも行えるように非接触型を前提とした。まちの飲食店の料理レシピ動画を公開し、市民に料理を作らせてＳＮＳ内でコメントを投稿してもらい抽選で協力いただいた飲食店で使用できる商品券が当たるというものであった。
結果として商品券は全て使われまちの飲食店の支援に繋がった。さらに協力いただいたお店がこの事業をきっかけとしたＳＮＳを広報ツールとし始めた店舗もあったことは冥利に尽きた。そして、市民の皆様からも感謝のコメントが多数いただけたことが何よりの結果だった。

呉ＪＣの輪総務委員会では、「互いを知り一丸となる」ことをテーマに掲げ、例会・総会運営、そして会員交流を行った。新型ウイルスの影響によって、年当初計画していた運営方法とはかけ離れた方法を考えなければならなかった。会うことも困難となり、ＺＯＯＭを活用したオンラインと実際に会場で対面するハイブリッド型例会の運用を手探りで行った。
通常の倍は負担がかかったであろう例会方法ではあるが、当委員会ではスタッフ・委員会メンバーが一丸となって立ち向かい、これからの呉青年会議所にとって大きな軌跡を残し、財産ともいえる例会方法を残したと言えた。また、会員交流はビーチボールバレーという誰しもが参加できる競技で、最大限の感染防止対策を講じた上で行った。事業後の懇親会でのメンバーの盛り上がりを見る限り、互いを知り一丸となったと言えたはずだ。

両委員会共に苦難の続いた１年だったと思う、私自身も自問自答が続く日々であった。
しかし、最後まであきらめず考え抜き、大きな成果を達成していただいた両委員会に心から敬意と感謝させていただき報告とさせていただきます。

副理事長報告

副理事長　大下　典之

２０２０年度　公益社団法人呉青年会議所　副理事長の役目を終え、その報告をここに記します。

本年度理事長より私に課せられた使命は２つありました。１つは、子供を介した地域内コミュニケーションが活発になるような活動を行い「地域で育てる」という意識を呉市民がもつことで、将来子育てをするなら地元がいいという思いをもち地域で子育てをする基盤をつくる事。もう１つは、同世代のまだ見ぬ仲間はこのまちに対してどのような想いを持っているのかを知り、そのまだ見ぬ仲間に我々を知ってもらう機会を設け、共感してくれる仲間を増やし会員拡大を行うという事。この使命を「子育てコミュニティ委員会」「ＧｒｏｗＵｐ委員会」に実行してもらい監理して参りました。

しかし２０２０年、人類が経験したこのない新型コロナウイルス感染拡大の猛威が世界を襲い、我々の活動も中止、延期、内容修正変更という苦渋の決断をしなくてはならないこととなりました。

子育てコミュニティ委員会では、実施日を延期し三密を回避できるような設えに変更というかたちになりましたが、「ＧＯＴＯパラスポーツ～Ｗｉｔｈコロナだから、親子で安全にたのしもう！！～」と題し、徹底した感染防止対策を行い自粛疲れの親子にパラスポーツのボッチャと車いすバスケを体験してもらいました。パラスポーツを通じて子育て世帯同士のコミュニケーションも活発になり最後には参加者全員笑顔になりました。ほんの１ミリかもしれませんが、参加者には確実に地元がいいという思いをもっていただけたと確信しております。また、地域市民の皆様にしっかりとした感染予防対策を行う事で実際に人と接する活動ができるという前向きな雰囲気を作れた事業ができたと考えます。

「ＧｒｏｗＵｐ委員会」では、異業種交流会が前日に中止になりまだ見ぬ仲間との出会いの機会がなくなり不安しかなかった会員拡大でありましたが、７名という新しい仲間が我々の想いに共感してくれて呉青年会議所の門を叩いてくれました。まだ見ぬ仲間を増やしたいのであれば我々がもっと積極的に活動し、そしてその活動を同世代の若者にたくさん発信し伝えていく必要があります。会員拡大は最大の青年会議所活動ともいわれるようにこのまちを明るい豊かなまち呉にするためにこれからも活動して参ります。

結びに、２０２０年度、副理事長という役職を若年会員の私が１年間全うできたのは、関わっていただいたすべての方のお陰だと考えます。何事も強い気持ちで「決定」していく事の大切さを学ばせて頂きました。関わって頂いたすべての方に感謝と敬意を表し、副理事長報告とかえさせていただきます。

副理事長報告

副理事長　水野清文

コロナ禍のなか、今までにない大変な１年であった。しかし、青年謳歌委員会　三戸委員長、キュレッ呉広報委員会　平岡委員長共に、このような状況下で１００％のパフォーマンスを発揮してくれた。今できる最善の方法を考え、呉青年会議所メンバーを先導し、全員が一丸となって行動ができたことは呉青年会議所の今後の財産になると信じている。

今年度、呉の地で開催された１０年に一度の第５０回広島ブロック大会を主管させていただいた。コロナ禍でなければ広島県下１２LOM の多くの青年会議所メンバーを呉の地に招待し開催する予定であったが、大規模なイベントが次々と延期や中止という判断をする中、第５０回広島ブロック大会についても従来の開催形式の変更を余儀なくされた。
結果、「ＷＥＢ上での開催」という形式をとったが、これは決して後ろ向きな判断ではなかった。第５０回という記念すべき大会で、今までにない形でブロック大会を行いたいという呉青年会議所メンバー全員の試行錯誤の結果であった。次年度以降のブロック大会の指針となるような素晴らしい大会になったと思う。

広報は今までよりも重要性が増していると感じた。本来、広報はまちに対して直接的な事業をするわけではない。しかし、事業の開催が制限される中、このような状況下でも地道に活動内容について発信しつづけることは他のメンバーにも影響を与え、意識を統一し、士気を高める大きな原動力になった。
そして広報では「つれづれＫＵＲＥ」という新たな試みも行った。広報として青年会議所活動だけでなく呉の歴史やイベント、そしておすすめのスポットを呉青年会議所のホームページ上で紹介していくというものである。呉の魅力を市内外に伝える手法として大きな役割を担ってくれたと考える。

１年間、今後経験できないような貴重な青年会議所活動をさせていただいた。様々な困難に立ち向かった１年であったが、この経験こそがこれからの呉青年会議所をより一層強くすると信じている。

最後になりましたが、呉青年会議所メンバー、第５０回広島ブロック大会にご協力いただいた皆さま、そして事業にご協力いただいた市民の皆さまには感謝しかありません。
１年間、本当にありがとうございました。

専務理事報告

専務理事　銭原　亨

新年のご挨拶で理事長を支え、スローガンを具現化するのが専務理事としての私の務めだとお伝えさせて頂きました。委員会からは離れた立場で成果の残せるよう、私が目指したのは会議の質の向上と、効率化でした。

質の向上について、具体的には会議のたたき台となる議案フォーマットの見直しを行いました。これまでも問われ続けた部分ですが、慣習的に、敢えて明示されていなかった計画時の焦点とすべき背景、目的、効果について、必ず訊ねるようにしました。当年度はコロナ禍により任期半ばでの事業計画の変更をさせて頂くに伴い、協議を交わした議案件数は必然的に多くなりましたが、回を重ねるごとに精度を増し、成果につながったと思います。

効率化については、ケーススタディを心がけておりました。無い経験を補うのはこれまでの歴史で残されてきた議事録、先輩たちの軌跡を辿ることの出来る事業報告です。この心がけである程度は要点を押さえた会議の進行が出来たと思います。

あたかも全うしたかのように見えますが、専務理事としては反省が多くありました。

専務理事は組織の要と言われます。対外の窓口ともなりますし、内部でも全メンバーと直接話す事が出来ます。しかしながら、時間は限りあるものですから、伝えるべく事を誤ってしまうと、取り返すことが出来ません。本年度は世界を襲ったコロナウイルスに負けないために、特にメンバー同士の信頼が重要だったように思いますが、心無い発言や感謝の言葉をかけるタイミングを逃したことが数多くあったことが悔やまれます。

しかしながら、２０２０年度の呉ＪＣは、大きく成果を残しました。

歴史に残る大きな決断を求められながらも、剛毅果断な陣頭指揮を取られ、力強いリーダーシップを示してくださった白井理事長が居なければ、　抜群の勤勉さと、処理能力で事務方の庶務全般を一手に担ってくれた高橋事務局長が居なければ、　多忙を極めながらも前向きな姿勢を崩さずサポート仕切ってくれた志々田セクレタリーが居なければ、　挙げればキリが無いですが、強い個性を放ったメンバーのお陰で本当に掛け替えのない経験をさせて頂きました。２０２０年度に関わってくださった全ての方に感謝いたします。

１年間本当にありがとうございました。

事務局長報告

事務局長　　高橋　利齊

今年度の呉青年会議所では、「地方移住」時流に乗り、呉に住もうという若年層を増やすための取り組みを行い、呉を若年層の活気にあふれるまちにしていくことを目標に、事業を展開していくことを目指しました。具体的には呉で生きることの魅力を伝えること、そして子供と地域を，子育て家族と地域をつなげることに取り組んでいくことに重点を置いて大きな事業を展開するように計画していました。

私は当会議所の事務局長として、公益目的事業を行うための予算編成を行い、会費の収入が８割以上を占める組織で予算配分を考えてきました。公益事業により多くの予算を考えること、また効果的な予算の使い方を提言することを心掛けてきました。事業を実施する委員会を離れ、予算や事業計画の全体を見る立場となり、別の視点で俯瞰することができ、組織運営での貴重な経験をさせていただきました。

本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点により、中止とした事業がいくつかありました。理事長、副理事長、専務理事の重役を絡めての大きな協議となりましたが、ここでも理事長の意向を組みながら役員一丸となり、事業計画・予算の変更を行いました。

また公益社団法人の公益担当の理事として、公益社団法人とは何かを、事業を行う各委員長に指導する立場となっておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今までと異なり、人を集めないで公益活動事業をいかにして達成するのかを、私だけでなく各委員会のメンバーが一丸となり熟考してきました。このことは呉青年会議所メンバーが公益法人についてより意識するきっかけとなりましたし、なにより私自身の公益法人運営に対する理解が深まりました。

最後になりましたが、私が事務局長の役職を一年間終えることができたのも、白井理事長のご推薦があったからです。本当に修練の場としてたくさんの事を学ばせていただきました。そして事務局の先頭に立ち力強く引っ張ってくれた銭原専務理事、細やかな連絡と気配りで迅速に対応してくださった佐々木事務局員、多忙な理事長を支えてくれた唯一無二の志々田セクレタリー、「Ｓｔａｒｔ　Ａｇａｉｎ」のスローガンのもと、呉市民と呉青年会議所が一丸となる事業を考えてくれた各委員長に感謝し、事務局長報告に換えさせていただきます。

『事業報告』

縁！まちづくり委員会
委員長　　小川　直

〔スローガン〕　ストーリーの共有

当初、当委員会は、高校を卒業した後に市外の大学に進学した若者が、大学卒業後、いつかのタイミングで呉市に帰ってくることを後押しするような事業を計画していた。まちづくり心理学という学問の研究によると、故郷を出た若者は、次世代への関心を持つことによって、故郷に帰りたくなる。発達心理学という学問の研究によると、次世代への関心は、親世代の人が持ちやすいとされている。親世代以外の人も異世代との交流により、年上の世代から自分がしてもらったことを次世代に対してしてあげようと思うようになり、次世代への関心が生まれる。そして、交流が継続しなければ、次世代への関心は消えてしまう。

当委員会は、事業で達成しようとする効果と、それに至る筋道を上記のように仮説し、若者が異世代との交流を継続して持ち続けることができる事業を計画していた。しかし、コロナウイルスが蔓延し、断腸の思いで事業内容を大きく変更した。

変更後の事業は、ＷＥＢ上で行うことし、コロナウイルスの伝播の可能性を極力排除した。また、当時の現状を踏まえて、呉のまちのためにすべきことは何かを再検討した。その結果、今、呉のまちが必要としている喫緊の課題は、市外に進学した若者が将来帰ってくることよりも、今現在コロナウイルスによりダメージを受けている呉の飲食店を応援することであると判断した。

そこで、呉市の大きな魅力の一つである食文化の担い手である飲食店を、ＷＥＢの力を使って応援する事業を計画した。事業は、目標の数値を達成し、成功したと考えている。今になっても、事業の参加者からＷＥＢ上やＤＭで好意的なコメントがされている。また、呉飯チャレンジ終了後、呉市内の諸団体の管理下でも、呉市民に呉市内の飲食店で使用できるお食事券を配布する事業が行われた。呉市民と呉市内の飲食店をお食事券で橋渡しをする事業の先駆けとなることが出来た。

以上のような経緯から、当委員会は、コロナウイルス蔓延という事態に直面し、事業内容を大きく変更したが、呉市の魅力を守るための大きな一助になれたと考えている。

事業報告

１．事業名：２月例会
　　日　時：２０２０年２月３日月曜日　１９：５０～２０：２０
　　場　所：クレイトンベイホテル　３階　天の間

事業概要：以下のとおり、執り行った。

①委員長が当委員会の本年度の当委員会が事業を計画するに至った背景を説明した。

②「なぜ多くの若者が、呉から流出するのか」をテーマに、寸劇を行った。

③当委員会の事業構想と基本方針を説明した。

④動画を作成し、上映した。

⑤委員長挨拶を行った。

検証方法と効果：

１）検証結果

例会後のアンケートにより、メンバーが当委員会の例会におけるプレゼン内容である基本方針を理解し、興味を持ったか、また、当委員会の事業に参加したいと思ったかという点について、ＷＥＢアンケートにより例会参加メンバーに回答してもらい検証した。

アンケート回答の基本方針について、「興味をもった」６８．６％、「理解した」５４．３％、「共感した」４２．９％、「興味もない」２．９％という結果になった。

興味もないと回答したメンバーは、例会に参加していなかったとのことであった。そのため、「興味を持った」以上の肯定的な回答が１００パーセントであり、事業目標を達成した。

２）効果

呉の若者が流出していく問題の根本がどこにあるのかをメンバーと共有し、その解決方法を概ねメンバーと共有できた。

もっとも、スローガンで述べた通り、当委員会が当初の事業計画において狙っていたのは、「若者が異世代と継続的に交流する」ことであったが、２月例会において「ナナメの関係」という言葉を用いたため、メンバーが「濃密なナナメの関係」を築く事業を行うとミスリードされたことが反省点であった。

２．事業名：呉で暮らす魅力を見つける事業
「コロナに負けない！飲食店応援事業　＃呉飯チャレンジ」

２０２０年２月頃から広島でも猛威を振るい始めたコロナウイルスの大流行という未曽有の危機に直面した。呉市の魅力の大きな一つである食文化を担う飲食店も、お客の減少により大きな経済的ダメージを受けた。外食する人がほとんどいなくなり、飲食店は、休業するか、ケータリング、テイクアウトにより売上を何とか下支えする状況であった。

また、当委員会が調査した結果、市民は、コロナウイルスが収束したら、外食をしたいと考えている人が多いことが明らかになった。そこで、当委員会は、コロナウイルス大流行により大打撃を受けた、呉の食文化を担う飲食店を、コロナウイルスを拡大しない方法により応援する上記事業を計画した。

事業を終えた今、反省点を考えればキリがないが、マイナスな点ばかりではない。お店の方からは、呉飯チャレンジのお食事券を持って来店するお客様がいなければ、その日はノーゲストだった日もあったと伺った。お食事券を持って来場されるお客様は、みんな嬉しそうにしていたと聞いた。動画の中には、ここでしか聞けないプロの技など、自分自身の成長や、日々の家事の役に立つことが幾つもあった。

どんなに良い事業をしても、どんなに良いことを話しても、相手に届かなければ意味がない。何を見せたいのか、どういう人に見て欲しいのか。どうすれば通りすがりの人が立ち止まって見てくれるのか。何があったら事業に来てくれるのか、参加してくれるか。それをいちいち一生懸命考えるのがＪＣなんだと、この１年間で再度学んだように思う。

今思えば、ああすれば良かった、こうすれば良かったと、後悔ばかりが頭に浮かぶように思うが、当委員会でこの事業を経験しなければ、その後悔にすら辿り着けなかったように思う。お食事券の当選通知を送らせて頂いた全ての人から、感謝の言葉をＳＮＳのＤＭで頂き、幸せな気持ちで一杯になった。この１年間、大きな学びを得る機会を頂き、ありがとうございました。

日時：令和２年７月２８日（火）～令和２年１２月３１日（木）
場所：ＷＥＢ上
協力団体：呉市内の飲食店２０店舗

事業概要（方法）：
・コロナで経済的ダメージを受けた飲食店を応援するために、「コロナに負けない！飲食店応援事業　＃呉飯チャレンジ」を行った。
・呉市民が、呉のまちの飲食店の料理動画を見て、その料理を作り、お食事券をプレゼントされることで、その飲食店に興味を持って通うようになり、呉のまちの飲食店の経済的ダメージを軽減することを目的とした。

・ＳＮＳを利用する広島県民、または、これからＳＮＳを始めようとする広島県民をターゲットとした。
・料理動画を見た人が、呉のまちの飲食店に通いたくなるという効果及びより多くの人に呉ＪＣの情報を届けるきっかけを作るという効果を狙った。
・ＳＮＳ内のコメントで、〇〇のレシピを作ってみた。簡単で美味しかった、お店にも行ってみたい等、お店及びレシピに対する肯定的なコメントが１００件投稿されることを目標数値とした。

検証方法と効果：
１）動画を見た人に対する効果
・動画視聴回数は、ＹｏｕＴｕｂｅとＩｎｓｔａｇｒａｍを合わせて７，５００回を超えており、多くの市民に呉市内の飲食店の賄いレシピの料理動画を見てもらうことができた。
・動画を見た人が、協力店舗の店のメニューを自分で作ってその店に興味を持ち、店に通うようになるきっかけを作ることができた。
・来店しなくても、動画を見ることで呉の飲食店の魅力を感じることが出来るとともに、呉の魅力を発信することできた。
２）飲食店に対する効果
・協力店舗がコロナウイルス蔓延のために被った経済的被害を、補填する一助となることができた。
・協力店舗が新たな生活様式に対応していく力としてＳＮＳを利用した新たな集客方法に触れることができ、協力店舗と市民との新たな交流の場を作ることができた。
３）呉ＪＣに対する効果
・ＳＮＳのフォロワーが増え、より多くの人に呉ＪＣのことを知ってもらうきっかけを作ることができた。
・動画を見て投稿したものが呉ＪＣの存在を周知するきっかけとなるとともに、呉の魅力を発信するきっかけを作れた。
・委員会単位のＳＮＳではなく、事業告知用のＪＣアカウントがあれば、毎年リセットされない継続性のある広報ができると感じた。
４）呉市内の諸団体に対する効果
・呉飯チャレンジ終了後、呉市内の諸団体の管理下でも、呉市民に呉市内の飲食店で使用できるお食事券を配布する事業が行われた。呉市民と呉市内の飲食店をお食事券で橋渡しをする事業の先駆けとなり、呉市の魅力である飲食店を守る動きの起点を作ることができた。
５）目標達成の検証
・ＳＮＳ内のコメントを確認して、当委員会の設定した目標数値を達成できているか

検証した。〇〇のレシピを作ってみた。簡単で美味しかった、お店にも行ってみたい等、お店及びレシピに対する肯定的なコメントが２０９件投稿され、目標の数値を達成した。

・今まで料理をしたことがない人や、ＳＮＳのアカウントを持っていなかった人が、この事業をきっかけに料理をしたことや、ＳＮＳアカウントを新設したことは、０を１にしたという意味で大きな効果があったと考える。

『事業報告』

呉ＪＣの輪総務委員会
委員長　下中　嘉也

〔スローガン〕一人はみんなの為に、みんなは一人の為に

２０２０年度呉青年会議所において、基本方針の１つである「互いの個性を理解し，一丸となって新しい呉ＪＣへ」のもと、一人ひとりの長所を共有し仲間を知ることの出来るよう、運営・設営を目指してまいりました。委員会名も輪という言葉を使わせていただき、総務委員会から例会運営を基盤に一人ひとりが活躍できるよう一丸となるように活動してまいりました。

世界的流行となったコロナウイルスにより３月例会より例年とおり全メンバーが集まっての例会や活動が出来なくなり４月５月例会は異例の中止となりました。今までとおりの例会が出来ない事、委員会スタッフと顔を合わせて意見交換が出来ない制約の中、様々な立場にあるメンバーに対応できるよう、会場に参集する際の感染予防策、会場と WEB を繋ぐハイブリッド開催の方法を整備して、６月からはメンバー全員が参加することの出来る例会を実施することが出来き、ニューノーマルが求められる一年でした。

その中でも、活動を前向きに進めて行くため、例会の重要性を改めて考え直すことが出来ました。Ｗｅｂ配信を利用した例会運営は在宅リモート参加の受け手側、発信側の意識の向上が同じ会場で行う以上に重要でした。青年会議所が得意な目的を考え、ターゲットは誰なのかをしっかりと考え作り上げていく事が求められました。１００％例会の達成は叶いませんでしたが、まちに向けた活動は輪となり次年度へ向けて歩み続けることが出来たと考えています。

最後となりますが、１年間委員長として全うできたのは、井田副理事長のご指導があってのものだと思います。また、私の思いや考えを議案にまとめ事業を実行し支えてくれた塩見副委員長、森澤副委員長、委員会を盛り上げてくれた中下幹事の助けがあったからこそ委員会から輪となり呉青年会議所を一丸へ導くことが出来ました。なにより私が一番輪の大切さに気付くことが出来ました。ここに感謝申し上げ当委員会の報告とさせていただきます。

１年間ありがとうございました。

１．事業名：総会運営
日　時：毎総会
場　所：クレイトンベイホテル　・　ＺＯＯＭ
協力団体：なし
事業概要（方法）：毎総会において、資料作成・会場設営・受付・運営・司会・議事録作成を行った。定款の定めを遵視し、会員全員による呉青年会議所の最重要事項の意思決定を円滑に行えるよう総会の運営に務めた。
６月臨時総会ではＺＯＯＭを用いて運営し、新たな総会の形でチャレンジを行った。
検証方法と効果：定款に沿って運営、実施された。
定時総会、臨時総会は開催されたすべての総会において正会員の過半数（委任状含む）を持って成立した。総会を厳粛な雰囲気の中、定款に沿い運営することで、メンバーに総会の大切さと会の意思決定の重要性を再確認することが出来た。非常時の総会開催においてＺＯＯＭを用いた総会の開催を確立することが出来た。

２．事業名：例会運営
日　時：毎例会
場　所：クレイトンベイホテル　・　ＺＯＯＭ
協力団体：なし
事業概要（方法）：毎例会において、セレモニー部の会場設営・受付・司会進行・慶弔報告を行った。
４月・５月例会は感染防止のため例会中止。
理事会報告をペーパーレスにし、パワーポイントを用いて専務理事より報告とした。
６月例会よりリモートによるハイブリット例会にて会場に来られないメンバーへＺＯＯＭを使い例会に参加いただいた。例会食は呉市の特産物をメニューに盛り込んでいただき呉の特産物を再認識していただいた。
呉ＪＣの輪通信を毎例会時にＬＩＮＥより配信し、例会食の特産物の紹介とメンバーを知っていただくため３つの自慢と１つのウソ

を一人ずつクイズ形式で投稿した。担当例会アンケートと例会運営アンケート、クイズをＷｅｂアンケートとして１つにまとめメンバーへ回答を求めた。

アカデミー委員会の協力のもと「呉ＪＣとは」の唱和を行いメンバーの意識統一を目指した。

検証方法と効果：メンバーへヒアリングを行った。

・理事会報告のペーパーレスは時代の沿い労力の負担をなくし効率化を図ることが出来た今後も繋げる必要がある。以前のようなフォーマットの資料を例会のスクリーンに表示するなど今後の改善も必要。

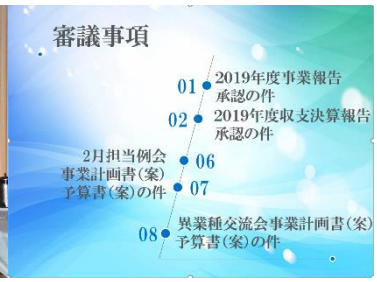
・初めての試みによるＷｅｂ例会、ハイブリット例会を行うことが出来きた。会場へ行けない中Ｗｅｂで参加できて良かった。

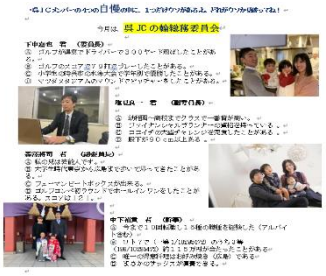
・「呉ＪＣとは」の唱和はアカデミーではなく呉ＪＣの輪総務委員会より意識統一となる形で発信する形が分かり易かった。

・呉ＪＣの輪通信でメンバーの知らない一面を知る事が出来、会話のキッカケなった。

４月５月と開催出来ない中で代わりとなる意識統一の場をメンバーへ提供できる配信をすぐに行うことが出来ればよかったと考える。その後、Ｗｅｂの配信も用いたハイブリット型の例会を行うことで集まらず行うことが出来る基盤を作る事ができた。例会の新たな形の可能性が膨らむキッカケとなった。

アンケートを１つにまとめＷｅｂにて行った、効率的であるので更なる使用意識の向上を目指していただきたい。





３．事業名：１月例会（新年互礼会）

日　時：毎総会

場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　天の間　１、２

協力団体：なし

事業概要（方法）：２０２０年度の呉青年会議所の理念と基本方針について行政機関、関係諸団体に伝えるため理事長所信表明を行い、来賓、関係諸団体、特別会員に伝えた。

オープニングではスローガンでもあるＳｔａｒｔＡｇａｉｎを表現するため、動画からスクリーンを破り理事長に登場していただき今年度のＳｔａｒｔとする演出を行い、その後理事長による所信表明と繋げていただいた。

近年お呼び出来ていなかったメディア関係者にもご参加いただき呉青年会議所の所信表明を、来賓、メディア関係者、特別会員へ伝えるとともに、活発な賀詞交換を設え今後の円滑な活動の基盤となるよう繋がりを作る事が出来た。

理事役員紹介と共に本年度ブロック大会主管ＬＯＭである事を来場者へ紹介を行った。

検証方法と効果：メンバーへヒアリングを行った。

・オープニングの演出が新しく面白かった。１年間の良いスタートが切れた。

・メディア関係者２名の方に参加していただく事が出来で良かった。

・呉市長をはじめ、これから呉を担う方々がご臨席しておられたことから青年会議所のご繁栄ぶりを感じることができました。（メディア関係者より）

行政機関、関係諸団体、特別会員に本年度の理念と基本方針を直接伝えることができ、またメディア関係者に参加いただき取材していただいた。新聞記事にしていただく事で外部への周知も行う事が出来、今後のご理解とご協力に繋げ、より成果の高い地域貢献活動を展開する事ができた。

若年層の移住増へ活動

呉JC互礼会　白井新理事長が抱負

呉青年会議所（呉JC）の新理事長に司法書士の白井祐哉さん（39）が1日付で就任し、新年互礼会で「呉の魅力を子どもたちに伝える活動などに力を入れる方針を示した。「進学などで一度離れても再び帰る選択をしてほしい。将来の転入者を増やそう」と訴えた。任期は12月31日まで。（三浦光博）

呉市内のホテルで11日にあった互礼会には、会員たち約130人が出席。白井理事長は所信表明で、少子高齢化の課題に触れ、都市機能と豊かな自然を併せ持つ呉の魅力を子どもたちに伝える活動などに力を入れる方針を示した。「進学などで一度離れても再び帰る選択をしてほしい。将来の転入者を増やそう」と訴えた。任期は12月31日まで。（三浦光博）

拠点を置くべく活動に取り組む」ための活動に取り組む」と抱負を述べた。

新理事長として所信表明する白井さん

公益社団法人日本青年会議所
東広島
毎日新聞社
入稿窓口 082-425-1110

４．事業名：６月例会

日　時：６月１日（月）１９：００～２０：００

場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ天の間　・　ＺＯＯＭ

協力団体：なし

事業概要（方法）：当青年会議所において、少しずつ日常を取り戻していく様子を広く伝える目的とした。

４月５月と通常の例会が開催できない時期から再Ｓｔａｒｔの例会として呉ＪＣの輪総務委員会のセレモニー部分のみ例会を行った。全メンバーが会場に集まる事が出来ない事から、Ｗｅｂ例会としてＺＯＯＭアプリをメンバーへ周知しハイブリット例会とした。

日本青年会議所より全国青年会議所実施の「てあらエール」企画による医療従事者を励ますプロジェクトを行った。

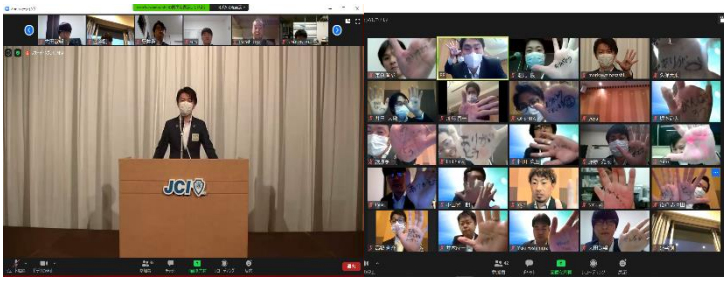
検証方法と効果：メンバーへヒアリングを行った。

・通常の会場を使うことにこだわり、特に大事な理事長挨拶がとても良い形で配信することが出来た。

・ＺＯＯＭでのＷｅｂ例会は初体験で、久しぶりにメンバーの顔が見られて良かった。

公益社団法人日本青年会議所を通じて、各地の医療従事者へ感謝のメッセージを届けることができた。

Ｗｅｂ配信を利用した例会は初の試みではあったが例会の目的であるメンバーの意識統一の場としてＬＩＶＥ配信出来た事は今後の活動の幅を大きく変える事が出来た。



５．事業名：会員交流事業　ＫＵＲＥ　ＪＣ　ＫＩＺＵＮＡ　ＣＵＰ

日　時：６月２７日（土）１４：３０～１７：００

場　所：呉市スポーツ会館　３Ｆアリーナ

協力団体：なし

事業概要（方法）：ビーチボールバレーを基に呉ＪＣ交流事業ルールに工夫し共に汗を流すことで一人ひとりの個性を知り、親睦を深めて頂いた。

ビーチボールバレーは初見のメンバーが多かったが、老若男女が健康を目的に作られたスポーツであったため、練習時間をしっかりと設けることで競技として白熱することが出来た。

呉ＪＣ ルールを作成し個人の多くの分野で好きなことを紹介しサーブを打っていただき、共に地域貢献活動を行う仲間との会話の一助とした。

共に汗を流した後で懇親会を設け、更なるメンバーの意識統一の場を設えた。大人数での開催は季節がら避け、４，５名での懇親会を分けて行った。

検証方法と効果：メンバーへヒアリングを行った。

・実際やってみると想像以上に楽しかった。メンバーの個性も知る事が出来た。

・前日のＰＲ動画配信は、事業前のメンバーをワクワクさせる仕掛けだった。

・あまり接点のないメンバーと話すキッカケとなり良かった。

今後の地域貢献活動に向け個人のパフォーマンスを十分に理解し互いの適材適所を知ることが出来た。参加したメンバーと会員交流を通じ、今まで知らなかった一面を知る事が出来た。組織の関係を越えた交流を行う事が出来た。スポーツ後の爽快感、達成感、その後に懇親会を行うことで、平素と違う会話も弾み、より互いの一面を多く知る事が出来た。懇親会では少人数で行うことで日頃のＪＣ活動・委員会等で話すことのなかったメンバーと話す機会となり互いに理解が深まった。

６．事業名：７月担当例会

日　時：7月６日（月）１９：００～２１：００

場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ天の間　・　ＺＯＯＭ

協力団体：　友村晋　氏（株式会社ミジンコ）

事業概要（方法）：例会会場には正副役員と呉ＪＣの輪総務委員会が来場しその他のメンバーにはＺＯＯＭ参加の例会を設営した。

Kahoot！アプリを利用し、メンバーが呉のまちをどれだけ知っているかクイズを行い、ＺＯＯＭ例会を飽きさせない設えと、Ｗｅｂ例会の中でも参加型例会とした。

株式会社ミジンコの代表取締役、友村晋氏を講師として招き、アフターコロナで生き残る方法についての講義をしていただいた。メンバーが今までのように容易に会う事が出来ない中でのニューノーマルな形、時代の変化、情報を素早くキャッチし対応し変化を楽しむことが出来る。地域貢献活動を行う団体としてメンバーに考えて頂いた。

検証方法と効果：メンバーへヒアリングを行った。

・Kahoot！を利用した設えは新しく、リモート例会を最大限に活用した良いアイディアだった。

・今後、ＺＯＯＭでも公演いただける講師が増えれば色々と可能性が増えると思った。

・新しい生活様式にも触れられ、呉ＪＣでも取り入れることのできるのもある、今後の活動に生かしていきたい。

メンバーとまちの情報を共有することで、呉のまちで活動していくポジティブな未来を想像することが出来、未来の情報を共有することで、呉のまちで活動していくポジティブな未来を想像することが出来た。

初のＺＯＯＭを利用した担当例会であり、Kahoot！アプリを用いた設えも好評であったことから、今後の可能性を広げることが出来た。

呉のまちに関するクイズや、友村氏にアフターコロナで生き残るマインドセットについて講演していただき、次世代を担う我々がまちのことを考え、コンフォートゾーンを飛び越えた行動をすることが出来るようになった。

７．事業名：１１月例会（創立記念日例会）

日　時：１１月１１日（水）１９：００～２１：３０

場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　天の間１、２・イタリコ・徳蘭・鳥八茶屋

協力団体：なし

事業概要（方法）：呉青年会議所の創立６８周年を特別会員会と共に祝い、当団体の理念を再認識し、今後のより高度な地域貢献活動の実現に資することを目的とした。

懇親会を少人数制とし会場をクレイトン以外にも設ける設とし、セレモニーを懇親会が行える席配置から変更しセレモニーを行った。

会場へ来られない特別会員・メンバーへＺＯＯＭを用いて配信を行った。次年度役員、新入会員の紹介を行い次年度と新たなメンバーの紹介までを例会会場で行った。

懇親会を少人数で行いより特別会員との親睦と呉青年会議所の歴史を話して頂く設えとした。

検証方法と効果：メンバーへヒアリングを行った。

・最初は特別会員と気まずいと思いましたがいざ話をしてみると楽しく、特別会員の現役時代を学ぶことが出来た。

・特別会員と現役会員の話す機会を持つことが出来て良かった。

・楽しい時間を過ごせたことに感謝します。若さというものを感じました。（特別会員より）

創立６８年の歴史ある呉青年会議所の歴史と経験を多くの特別会員の参加とはならなかったが歴史と経験を現役に語っていただく機会となる事が出来た。

各会場を委員長へ進行をお願いし懇親会に参加いただいた特別会員のおもてなしと交流を呉ＪＣの輪総務委員会だけでなく、メンバー一丸となり行うことが出来た。

８．事業名：１２月第１例会（次年度担当例会）

日　時：１２月７日（月）１９：００～２１：００

場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ天の間（１）　・　ＺＯＯＭ

協力団体：なし

事業概要（方法）：２０２１年度公益社団法人呉青年会議所の基本方針をメンバー全員で共有することで、次年度の地域貢献活動に対する意識を向上させる目的とした。

前半のセレモニー部分は本年度呉ＪＣの輪総務委員会が設えを担当し、後半の担当例会部分を次年度ＭａｋｅＳｅｎｓｅ総務委員会が担当した。スローガン序幕を行い理事長による次年度の基本方針の説明、次年度の理事会役員・出向者紹介を行い、委員会の紹介を行った。卒業式を控えた卒業予定者より次年度へ向けて動き出す現役メンバーへ向けたスピーチを行った。

検証方法と効果：メンバーへヒアリングを行った。

・各委員会の発表が素晴らしかった。卒業予定者の一言も感慨深く、是非続けたい。

・皆さん新たな役に初々しく良かったと感じた。

・卒業予定者の話の企画が面白かった。
スローガンの序幕が成功しスムーズに理事長による次年度のスローガン、所信・基本方針をメンバーと共有することが出来た。
次年度の委員会紹介では各委員会が次年度へ向け特色をいかした紹介を行い次年度の各委員会の活躍が楽しみとなる内容となった。
卒業予定者からのスピーチ時間を取り入れ、新入会員などの歴の短いメンバーから長いメンバーが次年度以降の活動の励みとなる設えとなった。

９．事業名：１２月第２例会（卒業式・納会・卒業送別会）
日　時：１２月１９日（土）
場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ花の間、天の間　・　ＺＯＯＭ
協力団体：なし
事業概要（方法）：卒業生の功績を称えると共に、卒業後の公益活動を喚起することで、明るい豊かな社会を実現する目的とした。
卒業式では卒業生の経歴紹介、感謝状授与、現役メンバー代表による送辞朗読、卒業生代表による答辞朗読を行った。
納会では本年度の活動を振り返るＶＴＲと理事長による総括スピーチにて、本年度事業の報告と検証を行った。最後に次年度理事長によるスピーチ、本年度専務理事から次年度専務理事へＪＣ旗が引き継がれた。
卒業送別会では敢え無く例年とおりの飲食を伴う送別会は出来ないながらも卒業生のゆかりのある方よりお祝いのメッセージを送り、卒業生からは特別会員と現役メンバーへ向けて卒業の喜びと感謝を込めたライブ演奏を行った。
検証方法と効果：メンバーへヒアリングを行った。
・当日会場へ来ることが出来ない卒業生も事前撮影により感謝状授与の動画により、メンバーと共に卒業式を迎える設えとなった。
・１年間の活動をＶＴＲで振り返り理事長の総括を聞く事でしっかりと１年間を振り返り１年間の集大成となったと考える。

・急な飲食を伴う送別会の変更が行われたが、心から卒業生を送り出すことが出来て良かった。
卒業式では厳粛な雰囲気の中、執り行い卒業生の功績を称えると共に、卒業後の公益活動を喚起することが出来た。
納会では、ＶＴＲにて本年度を振り返り理事長による事業報告・検証を行うことにより本年度の呉青年会議所の軌跡を把握し、且つ次年度以降より高度な地域貢献活動の実現に向け、さらに一丸となる事が必要である。
卒業送別会では卒業生の悔いの無い顔を拝見させていただき、卒業生にとっても現役にとっても忘れることの無い卒業式を設えることが出来た。

『事業報告』

子育てコミュニティ委員会
委員長　　小田　晃士朗

〔スローガン〕みんなでつくる子育てのまち呉

私は、子供と地域を、子育て家族と地域をつなげ、地域で子育てする意識を改めて醸成するため、多世代のコミュニケーション活性化を目指し活動をスタートさせました。

そのような中、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、私たちの生活は一変し、積極的に大多数で直接コミュニケーションを図ることが難しい状況となりました。そのため、当初５月に広地区で開催を予定していた、多世代交流事業パラスポーツ「ボッチャ」大会も延期となり、当時ご協力を頂いた関係各団体と悔しい思いをしたことを今でも記憶に覚えます。

しかし、このピンチをチャンスと捉え、今だからこそあたりまえだった集客イベントを、今の時代に沿ったかたちで具現化しようと、ターゲット層や参加人数の縮小、感染症対策の徹底を図り、結果的に１１月２２日に呉ポートピアパークにて子育てコミュニティ創造事業「ＧＯＴＯパラスポーツ～ｗｉｔｈコロナだから、親子で安全に楽しもう！！～」と題し、子育て世帯の親子を対象にパラスポーツの体験会を行いました。約９０名の方に参加頂き、皆様から内容、そしてコミュニケーション醸成について評価を頂きました。

また、このイベント開催にあたり、地域の方から評価を頂き、１２月１７日には天応地区社会福祉協議会からオファーを頂き、ご高齢の方約２０人に対して、ボッチャ体験会を行い、そして当団体へボッチャセットの寄付を行いました。この一連の流れは、地域で世代を超えて楽しめるコンテンツになる可能性もあり、当初難しいと考えていた、多世代の交流に今後つながるものと信じております。

最後に、新型コロナウイルス感染拡大の中、当運動に理解を頂き、快くご支援くださった関係団体の皆様、そして、様々な議論し背中を押してくれた委員会メンバーをはじめ呉青年会議所委員会メンバー全員に感謝を申し上げるとともに、この経験を今後に生かすことを誓い、委員長報告とさせて頂きます。

１．事業報告

事業名：ウ　セミナー事業（３月担当例会）

日　時：２０２０年3月２日（月）　１９：５０～２０：５０

場　所：クレイトンベイホテル３Ｆ　天の間

事業概要（方法）：当委員会が行う今年度の事業概要及び目的の周知をするため、下記の通り執り行った。

（１）直前理事長より本年度の当委員会が事業を計画するに至った背景についてパワーポイントを使用し説明した。

（２）子育て世帯や地域住民の実際の声をインタビューした映像を元に、寸劇を行った。

（３）当委員会の事業構想と基本方針についてパワーポイントを使用して説明した。

（４）委員長挨拶にて今後の委員会運営の協力を仰いだ。

しかし、映像トラブルがあり予定通り進行ができなかった。しっかりと準備とリハーサルをして臨まなければならないと改めて感じた

検証方法と効果：例会参加のメンバーにヒアリングを行い、その意見をもとに効果を判断した。例会後のアンケートで、当委員会の事業の概要について「とても共感した」が３３．３％、「共感した」が５５．６％、合計８８．９％となった。理事長所信にある「地域で育てる」ことについて、世情や数値を当委員会内で改めて調査し、メンバーの前で発表することによって、委員会内でより強い共通認識を持つことができたこと、実際に当事者の声を聞き、メンバーへ伝えることによって、当委員会の事業に対する想いを共感いただけたと考えます。

２．事業報告

事業名：ア　地域魅力再度発見事業（子育てコミュニティ創造事業）

「ＧＯＴＯパラスポーツ～ｗｉｔｈコロナだから､親子で安全に楽しもう！！～」

日　時：２０２０年１１月２２日（日）　１０：３０～１５：３０

場　所：呉ポートピアパーク（イベントガレージ・イベント広場）

協力団体：広島県障害者スポーツ協会

呉ポートピアパーク友の会

呉車椅子バスケットボール教室

天応地区自治会連合会

呉市

呉市教育委員会　他

事業概要（方法）：呉市の子育て世帯を中心とした地域の方を対象に、午前の部１８組、午後の部１８組、計３６組を募集し、パラリンピックスポーツの体験会を行った。全体の司会進行、また、事業をより盛り上げるため、スポーツ解説者の吉田安孝氏とラジオパーソナリティのおだしずえ氏をＭＣに迎え、車椅子バスケットボール、ボッチャを行った。また、その様子を映像に残し、参加者に対して振り返りの機会の提供と、地域の関係者への周知を行った。特に、この度は新型コロナウイルス感染拡大の影響から､感染症対策に力を入れた｡フェイスシールドの装着、ＣＯＣＯＡや広島コロナお知らせＱＲの登録徹底、三密の回避、どのメンバーも意識してもらえるよう、全体Ｑ＆Ａを作成し、参加者に安心安全に参加いただけるよう、心がけた。

検証方法と効果：参加者へ事業当日アンケートを行った。また、事業後、青年会議所参加メンバーへもヒアリングを行った。参加者の性質として当日参加３３組中、１８組が一般参加者、その他１５組はＪＣ関係者家族３組、紹介１０組、スポンサー企業家族２組の合計となる。ＪＣ家族参加が少なく、かつ、全ての方に肯定的な意見を頂くことができたことは、評価できる。また、子育て世帯どうしのコミュニケーションを促すことで、子どもが他の大人（地域の大人）と話す機会を設けることができた。加えて、新型コロナウイルス感染拡大の影響による自粛ムードで、リアルなコミュニケーションの機会が失われていたが、しっかりと対策し事業を行うことで、多くの方に参加頂き、地域全体に前向きな雰囲気ができた。その結果、開催地域の天応地区社会福祉協議会から評価を頂き、ボッチャ体験会とボッチャセットの寄付を行い、地域に根差したコンテンツに今後発展していくことが期待される。

Go To パラスポーツ!
2020/11/22(日)
県

『事業報告』

Ｇｒｏｗ　ｕｐ委員会
委員長　　久保　大乗

〔スローガン〕　自信教人信　～自ら信じることによって人を信ぜしむ～

当委員会のスローガン、自信教人信を簡単に説明すると、「まず自分がその教えを信じて正しく受け止め、その教えを人に伝えていく」という仏教用語です。私はＪＣの勧誘をする際、嘘を言わない、適当なことを言わないということをモットーとしていました。その上で、私が本当に良いと感じているＪＣの魅力を相手に伝え、相手にもＪＣの良さを実感してもらいたいと考え会員拡大を行っていきました。

また、会員育成の目標に、最高の人間関係を作るということも掲げました。数あるＪＣの魅力の中でも、様々な人と出会うことができ、広い交友関係と深い友情を築くことができるという点が、この組織の一番の魅力だと私は感じており、仮入会員にもそのような人間関係を作ってほしい、この組織を好きになってもらいたいと考えたためです。

年間事業計画は、２月に担当例会を、２月末には異業種交流会を、３月には入会候補者面接を、４月には仮入会員セミナーⅠを、７月には仮入会員セミナーⅡを、１０月には新入会員担当例会を考えておりました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、計画通りに行えたのは２月担当例会だけでした。

また、直接顔を合わせての会議の開催が憚られる状況だったため、リモート会議を中心に議論を重ねていくこととなりましたが、このことは大変苦労しました。

仮入会員同士が初めて直接顔を合わせて会議をしたのが７月と、例年に比べスタートが大幅に遅れましたが、そこからは急激に仲が深まり、１０月例会も逆境に負けずに存分に能力を発揮してくれたと感じています。

仮入会員を現役会員に紹介する機会があまり設けられなかったことが反省点であり後悔していることでもありますが、本入会してくれた２．５次元のメンバーの今後の活躍を誰よりも楽しみにしています。

最後に、一年間ご指導くださった大下副理事長、付き合ってもらった委員会メンバーに感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

事業報告

１．２月担当例会

日　　時：２０２０年2月３日（月）　２０：２０～２０：５０
場　　所：クレイトンベイホテル　３階　天の間

事業概要（方法）：会員拡大を行っていく上で最も大切な事は、現役会員全員の意識を統一し、全員で拡大活動をすることだと考えたため、Ｇｒｏｗ　Ｕｐ委員会が掲げる意識統一してほしい事柄と、守ってもらいたい約束事について、ＰＰと寸劇を用いながら伝えた。

また、月末に予定している事業、異業種交流会についての説明と、協力のお願いを行った。

セレモニー部分に於いては、「呉ＪＣとは」を唱和する時間を設け、それを全員で唱和することにより、意識統一を図った。

検証方法と効果：例会に出席した会員にアンケートを取り、Ｇｒｏｗ　Ｕｐ委員会が伝えたかった思いがきちんと伝わったか、意識の統一が図れたかの検証を行った。当委員会としては理解率の１００％を目指したが、残念ながらその数値を達成することはできなかった。しかし、どの項目でも９０％以上の理解率を得ることはできたため、プレゼン内容や方法の方向性は間違っていなかったのだと感じた。

内容についての回答は、「分かり易かった」「理解できた」という感想を多くいただき、また、会員拡大を一緒に頑張っていこうという気持ちになったという感想もいただけたので、良いスタートが切れたと感じた。

しかし、構成としては会員拡大に関しての内容が多く、Ｇｒｏｗ　Ｕｐ委員会としての方針が少なめになってしまったため、もう少し基本方針の伝達を丁寧にやっても良かったのではないかというのが反省点である。

２．ウ　異業種交流会　～Ｍｅｅｔ　ｕｐ　Ｐａｒｔｙ２０２０～

日　　時：２０２０年２月２８日（金）　１９：００～２１：３０

場　　所：クレイトンベイホテル３階　琥珀の間・花の間

協力団体：株式会社アビサル・ジャパン　代表取締役　幟立真理　氏

事業概要（方法）：上記の日程、会場で開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染が拡大し始めており、来ていただく予定だった講師が、正に感染者が多数出ている北海道であったこと、他の多くの団体が続々とイベントを中止していたこと、総理大臣より全国の学校の一斉休校が発令されたこと等、様々な要因が重なったため、２０２０年２月２７日に中止することを決定した。

当初は、新型コロナウイルスが落ち着くことが予想される秋頃に延期して開催をできないかということも考えたが、結果として収束することはなく、秋頃にはまた感染者が呉市に於いても増えてきていたため、完全中止とした。

３．入会候補者面接

日　　時：①２０２０年３月１３日（金）　１９：００～１９：３０

②２０２０年４月６日（月）　１８：００～１８：５０

③２０２０年７月１１日（土）　１９：５０～２０：０５

場　　所：①クレイトンベイホテル３階　花の間

②クレイトンベイホテル３階　花の間

③Ｚｏｏｍ

事業概要（方法）：まずスポンサーに入会候補者の紹介を行ってもらい、続けて入会候補者自身が３分間のスピーチを行った。スピーチのテーマは「最近、新たに始めて頑張っていること」又は「新しく始めてみたいと思ってい

ること」と定めたが、これは呉ＪＣの２０２０年スローガンである「Ｓｔａｒｔ　Ａｇａｉｎ」にちなんで選んだ。候補者のスピーチ後は審査委員会より質疑応答を行った。
本来であれば、審査委員会以外の現役会員にも多数参加してもらい、厳粛な雰囲気の中、面接を行いたいと考えていたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点より、なるべく人が多く集まらない方が良いと判断し、審査委員会以外の現役会員には参加を遠慮してもらった。また、4月１９日に予定していた面接は中止となったため、その日に面接を受ける予定だった候補者２名は、ひとまず書類審査で合格とし、７月１１日にＺｏｏｍにて３分間スピーチを行った。

検証方法と効果：面接に出席していただいた現役会員に面接についての感想を求めた。
新型コロナウイルスの影響により、様々な変更を余儀なくされた状況だったが、それに対して迅速に対応していたというご意見をいただけた。また、スピーチによって、入会候補者の人柄を知ることができた面接であったと考える。
ＺＯＯＭによる入会候補者面接は初の試みであったが、現役会員にとって参加の都合をつけやすいといった点や、会場費がかからない点、候補者の話している顔が大きく見える点など、ＷＥＢ開催ならではのメリットが多数有ると感じた。
個人的には会場に集まって行うあの独特な緊張感と雰囲気がより候補者面接には相応しいとも感じているが、しかしＷＥＢ上だからといって緩んだ雰囲気になることなく、緊張感を保った面接が行えたことも事実であるので、会場での面接開催が困難であるならば、ＷＥＢ開催の面接は十分代替案になり得ると感じた。

４．仮入会員セミナーⅠ

日　　時：２０２０年7月１１日（土）　１９：００～２１：００

場　　所：Ｚｏｏｍ

事業概要（方法）：仮入会員にＪＣについての基礎知識を習得してもらうための講義を行った。また、過去に呉ＪＣが実際に行った事業の内容を、当時の担当委員長に話してもらい、ＪＣの事業は何のために行うのかを仮入会員に学んでもらった。

当初は４月に開催し、内容ももっと懇親を深めることに重点を置いた内容で計画していたが、新型コロナウイルスの世間での状況を鑑み、開催日を延期した。その結果、これ以上延期をしても状況が劇的に好転するとは考えにくいと判断したため、この時期の開催を決意し、その時点でのやれる内容でＺｏｏｍにて行った。

過去事業の話は、担当委員長に事前にインタビューをするという形で動画を撮影し、それを見てもらった。

また、講義終了後は懇親を深めるためにリモート飲み会を開催した。現役会員には仮入会員のことを初めて見る者も多数いたので、仮入会員の自己紹介と絆を深めることを目的に行った。

検証方法と効果：参加者より感想を集め、内容についての検証を行った。完全リモートでセミナーを開催するのは初めての試みだったので不安もあったが、参加者からは、講義の内容のまとまりが良かった、懇親会も楽しい雰囲気で良い交流会だったというご意見をいただいた。

仮入会員からは「感銘を受けた」「もっと色んな話が聞きたいと思った」「自分たちもしっかりと考えていきたいと思った」という感想がもらえたので、このセミナーの目的は達成できたと感じている。

また、リモート飲み会は経験上、司会進行役がしっかりと仕切らないと中途半端に終わってしまうと感じていたので、シナリオを精査し、現役会員に対して仮入会員のお披露目がしっかりとできるように努めたが、その目的も達成できたと感じている。

５．仮入会員セミナーⅡ

日　　時：２０２０年8月２２日（土）１４：００　～　8月２３日（日）１２：２０
場　　所：大和波止場（呉市宝町５－２０）
　　呉市内各所
　　呉市大空山青年の家（呉市広町字紅鶴岩２００２５番地）
　　つばき会館　（呉市中央６丁目２番９号）
協力団体：日本ＪＣ公認トレーナー　山本　久美子　氏

事業概要（方法）：１泊２日にてセミナーを開催した。１日目は体力的な修練を与え、絆を深めるプログラムを、２日目はＪＣについてよる深く学んでもらうための座学を行った。

１日目は呉市内をウォーキングしながら呉市の魅力を探してもらい、チェックポイントにて呉市にまつわるクイズと、仮入会員にはＪＣＩクリード等のテストを受けてもらった。

懇親会は、当初バーベキューを予定しており、現役会員と仮入会員が大いに懇親を深めるよう計画していたが、セミナーの約２週間前に呉市内でも新型コロナウイルス感染者の数が増え始めたため、バーベキューを中止し、代わりに１人１つずつのお弁当を用意して懇親会を行った。また、宿泊に関しても現役会員に関しては自由意志にしようかと考えていたが、施設側からの人数制限により、仮入会員とＧｒｏｗ　Ｕｐ委員会メンバーのみに限定された。

２日目は日本ＪＣ公認トレーナーの方から「ＶＭＶ」をリモートにて行っていただいた。

呉のメンバーは会場に集まり、Ｚｏｏｍで繋がったトレーナーの講義をスクリーンに映し、受講した。

講義後は、仮入会員にこの度のセミナーを通して学んだことのまとめをグループ討議してもらい、発表してもらった。

検証方法と効果：参加者より感想を集め、内容についての検証を行った。

１日目は快晴に恵まれた上、かなりの長距離を歩いてもらったので、

参加者は体力的にきつかったのではないかと思うが、大きな事故もなく全員が無事に歩き終えたことが何よりも良かったと感じている。各グループには写真を何枚か撮ってもらったが、それらの写真には参加者みんなの笑顔が写っており、グループ内での絆が深まっていることを確信した。

また、参加した仮入会員はクリード等のテストを全員ウォーキング中に合格し、１人も追試をすることがなかった。

懇親会は、現役会員と仮入会員が直接顔を合わせて懇親を深めるのが今回初めてであったが、その分、今まで交流がなかった者同士が話し、懇親会が終わる頃には終了を惜しむ雰囲気になっていた。

２日目に受講したＶＭＶは現役会員にとってはすでに知っている知識がほとんどであったかもしれないが、仮入会員にとっては、ＪＣという組織についてより深く知るための場となり、１０月例会に向けて自分達が考えている仮想事業の構築のための大きなヒントになったと考えている。

この２日間を通して、仮入会員同士の絆はより強固なものとなり、現役会員との交流もずっと深まったと感じた。

６．１０月担当例会

日　　時：２０２０年１０月５日（月）　１９：５０～２０：５０

場　　所：クレイトンベイホテル３階　天の間・ＺＯＯＭ

事業概要（方法）：新入会員が仮入会期間に学んだＪＣの知識を活かし、自分達であれば呉のまちのためにどのような事業を行うか、それを行った結果、まちがどうなっていくかという仮想の事業を計画してもらい、そのプレ

ゼンを行ってもらった。
また、発表後は白井理事長よりＪＣバッジの授与を行っていただき、新入会員には改めて呉ＪＣの仲間に加わったことを実感してもらい、現役会員には新たな仲間の誕生を見守ってもらった。
例会の１週間前に呉市内でクラスターが発生し、会場に来られなくなった新入会員もいたため、プレゼン内容や方法を大きく変更するかという案も出たが、結果として内容は変更せず、会場組とリモート組とに分かれてのプレゼンとなり、正に新入会員の同期会名である２．５次元に相応しいプレゼン内容となった。
現役会員は、必要最小限の人数のみがクレイトンベイホテルに集まり、それ以外の会員はリモートで出席していただいた。

検証方法と効果：現役会員と新入会員に、それぞれ新入会員同士の絆や真剣な思いを感じたか、絆や学びは深まったかというアンケートを行った。
これらのアンケートについて、得られた回答の内、肯定的な回答が１００％だったので、見事に目標を達成することができた。これは、発表が全体的に楽しそうに行われており、新入会員達が当日までに築き上げてきた全てを出し切っていたため、それが見ている者にも伝わったのだろうと思っている。リモートで出席してもらった現役会員も楽しそうな笑顔を見せてくれていたが、会場にいたメンバーはそれ以上に楽しそうだったので、可能ならば、やはり全現役会員に会場で直接見守ってほしかったという思いは残る。
バッジの授与は、会場に来られなかった新入会員は、事前に授与した様子の録画を当日流したり、画面越しに白井理事長から激励の言葉をいただいてから自分でバッジを装着したりと、全員がバッジを授与される様子を現役会員に見守ってもらうことができたので、厳粛な雰囲気を保つことができ、新入会員にとっても現役会員にとっても貴重な時間であったと考えている。

『事業報告』

キュレッ呉広報委員会
委員長　　平岡　達也

〔スローガン〕いいね！？

ＳＮＳ上で「いいね！」を集めることを重要視する広報を課題として、「いいね！？」の広報を目指すこととした。

「いいね！？」の広報とは、「現在・自分」の情報だけでなく、「過去・自分たち」の情報を発信するものと位置づけた。

「過去」に関する広報活動としては、当初、これまで呉のまちが抱えてきた課題と、これに対して呉青年会議所が打ち出してきた解決策を紹介していくことを計画していた。

しかし、旧日新製鋼呉製鉄所が閉鎖することが決定するとともに、新型コロナウィルス感染症の拡大も進み、呉のまちこれまでにはない深刻な危機を迎えつつあると考えた。

そのため、呉青年会議所の歴史だけではなく、この呉のまちの「景色」に焦点を当てることにした。

今後も種々の深刻な課題が現れる中で、私たちが呉のまちに残したいものとは何なのかを考えることなくして、これらに立ち向かうことはできないとの結論に至ったからである。

「自分たち」に関する広報活動としては、毎月１回、「つれづれＫＵＲＥ」と題して、呉のまちでの生活をイメージできるような情報を紹介することを計画した。

新型コロナウィルス感染症の拡大により、当初の計画の変更を余儀なくされる中において、自分たちだけで行くことができる海や山を紹介したり、呉の祭りに登場する「やぶ」について多様な観点を紹介したりしたことで、呉のまちの魅力をこれまでにはないかたちで紹介することができた。

１年を通じて事業を継続するためには、企画・管理・実行のバランスをとることが重要であることを実感した。どれかに注力して、バランスを欠いてしまうことのないよう気を付けることを伝えていきたい。

最後になりますが、１年間を通じて、「やるべきこと」と、私の「やりたいこと」を調整し続けていただいた水野副委員長、委員長のわがままを手助けしてくれたキュレッ呉広報委員会のスタッフ、メンバーの皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。

１．事業名：２０２０年度総合広報ツール管理事業

日　時：適宜の日時

場　所：適宜の場所

協力団体：なし

事業概要：事業計画書、会員手帳を作成し、配布した。ホームページを作成し、インターネット上に公開し、管理した。

検証方法と効果：適宜改善点を聴取し、改善した。

２．事業名：年間広報事業

日　時：適宜の日時

場　所：適宜の場所

協力団体：なし

事業概要：ＳＮＳ、ホームページを通じて、各委員会の行う事業を告知した。事業の実施後には、事業の内容をホームページ上において写真とともに報告した。

「つれづれＫＵＲＥ」と題して、呉のまちの魅力をホームページ上において紹介した。

検証方法と効果：ＳＮＳについては、フォロワー数、ホームページについては、閲覧数を確認することで検証した。

効果としては、一定程度フォロワー数や閲覧数の増加が認められたが、増加数自体が一定であることから、毎回相当程度同じ層の方にみていただけた一方で、新たな層へのリーチは限定的であった。

３．事業名：８月担当例会

日　　時：令和２年８月３日午後７時～午後７時５０分

場　　所：クレイトンベイホテル３階　天の間

協力団体：なし

事業概要：ＰＰ，動画を使用して，キュレッ呉広報委員会の活動内容を説明した。また，冊子編纂事業の概要を説明し，協力を求めた。

検証方法と効果：検証方法としては，アンケートを実施した。効果は，基本方針・つれづれＫＵＲＥ・冊子編纂事業の趣旨について，いずれも８５％を超える参加者から，「理解できた」・「やや理解できた」との回答を得た。

４．事業名：ア　地域魅力再度発見事業（冊子編纂事業）

日　時：令和２年１１月２８日～令和２年１２月１９日

場　所：呉ポートピアパーク，呉駅前，れんが通り商店街

協力団体：呉市

事業概要：冊子を作成した。内容は、前半部分に呉市の危機を掲載した。危機の内容としては、①高齢化、②災害、③消費構造の変化とした。後半部分はカレンダーとした。呉市内の昔の写真と、同じ場所と思われる地点における現在の写真を両方掲載することで、見ていただいた方に、風景の変化を実感していただける内容とした。また、その場所における豆知識を掲載した。

検証方法と効果：配布枚数は、合計５９０部を呉市民に配布した。配布時に、呉のまちで残したい風景について聴取し、ＳＮＳ上に掲載した。「＃ゴーへ―」での投稿を求めた結果、２４の投稿があった。

５．事業名：年間事業報告作成

日　時：適宜の日時

場　所：適宜の場所

協力団体：なし

事業概要：年間事業計画書を作成し、ホームページ上に公開した上で、関係諸団体に配布する。

検証方法と効果：配布をもって終了とする。

『事業報告』

青年謳歌委員会
委員長　　三戸　規弘

〔スローガン〕青年謳歌～一丸となり、心にささる経験を～

「青年としての活動と時間を謳歌したい」
私は、この思いを胸に、第５０回広島ブロック大会を担当する委員会として、この広島ブロック大会をチャンスと捉え、もう一度私達のまちはどのようなまちであるのかを呉青年会議所のメンバーが見つめ直し、呉市民の皆様に青年会議所の活動を知るきっかけにして頂きたい。そして、メンバーが一丸となりこの大会を盛り上げる事で、青年会議所としての活動を呉市内外に発信する事を目指し活動をスタートさせました。

そのような中、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、私たちの生活は一変し、当委員会が４月に事業として参加予定であった、「呉みなと祭」自体が中止となり、新型コロナウイルスの影響の大きさに衝撃を受けました。当時ご協力を頂いた関係各団体と委員会メンバーで悔しい思いをしたことを今でも記憶に覚えております。

広島ブロック大会の開催も当然影響を受け、当初６００人近いメンバーが呉の地に参集する予定が、参集はせずインターネットでの配信による開催に切り替わりました。当委員会が呉らしさを出そうと企画していた広島ブロック大会内で行う予定であった「魅力発見宝市」も中止となりました。しかし、このような状況の中であっても出来る事をやりたいという思いから１０月２４日の広島ブロック大会当日にＹｏｕＴｕｂｅチャンネルを使い広島県の魅力を発信する、ブロック大会実行委員会事業「つながろう広島」プロジェクトを行いました。集まれないなら、こちらから行って各地域の魅力を動画で撮影しようと、ビデオカメラを持って１２地域を周りました。各地青年会議所のメンバー約５０名の方々にご協力頂き、この状況下で行う素晴らしい事業ですと好評も頂きました。

また、本事業を行った事により各地域のメンバー同士の交流が生まれ、地域間でのつながりが強くなり、このつながりが今後の呉市を含めた各地域での活動に繋がる事と確信しております。

最後に、この様な状況下の中で、本事業に協力して頂いた各地青年会議所のメンバー、各所関係団体の皆様、呉青年会議所全メンバーに感謝を伝えると共に、この経験をこの先の活動に活かしていく事を誓い、委員長報告とさせて頂きます。

１．事業報告

事業名：ウ　セミナー事業（９月担当例会）

日　時：２０２０年9月７日（月）　１９：５０～２０：５０

場　所：クレイトンベイホテル３Ｆ　天の間

事業概要（方法）

第５０回広島ブロック大会への意識統一と全メンバーとの最終打ち合わせを行う為、下記の通り執り行った。

（１）副委員長より、本年度の当委員会が実行委員会として行う第５０回広島ブロック大会を計画するに至った背景、当日のメンバーの動きについてパワーポイントを使用し説明した。

（２）副委員長より、ブロック大会実行委員会事業「つながろう広島」プロジェクトの企画に至った背景、思い、メンバーに行ってもらう撮影についてパワーポイントを使用に説明した。

（３）当委員会の基本方針と事業に対する背景、また第５０回広島ブロック大会実行委員会の実行委員長として、広島ブロック大会の周年を呉が主管してきた背景、思いをメンバーに向け説明した。

リハーサル不足により、当初予定していた時間より事業の説明が早く終わり委員長挨拶が長い時間となってしまった。リハーサルはしっかり行って臨まなければならない。

検証方法と効果：例会参加のメンバーにヒアリングを行い、その意見をもとに効果を判断した。例会後のアンケートで、第５０回広島ブロック大会の概要について「理解できた」が９０．０％、「自身の役割について」が８０．０％、「一緒に成功させたいと思いましたか」について「はい」が９０．０％、ブロック大会実行委員会事業の内容について「理解できた」が６５．０％となった。

事前収録という過去に例のない手法で行う事になった第５０回広島ブロック大会の内容について全メンバーに当日の内容や、役割などの説明を分かりやすく伝える事が出来た。ブロック大会実行委員会事業については、メンバーに分かりやすく伝える為、実際に当委員会メンバーで動画を撮影し、編集した動画を見てもらい説明する事で、具体的にどのように事業を行うのかという事をメンバーに周知出来た。

委員長挨拶で０周年に呉青年会議所が広島ブロック大会を主管するという事の意義や過去の歴史を全メンバーに伝える事で、広島ブロック大会を全メンバーが一丸となり行わなければならないという事を周知出来た。

２．事業報告

事業名：ア　地域魅力再度発見事業（ブロック大会実行委員会事業）

「つながろう広島」プロジェクト

日　時：２０２０年１０月２４日（土）

場　所：インターネット上（ＹｏｕＴｕｂｅチャンネル内）

協力団体：広島県内１２地域の青年会議所

事業概要（方法）

ＹｏｕＴｕｂｅチャンネル「未来に残したい広島スポット」を開設し、第５０回広島ブロック大会の式典動画を配信する１０月２４日までに呉青年会議所を含む県内１２地域にある各地会員会議所メンバーに「コロナ禍での家族との休日の過ごし方」をサブテーマとし、各地会員会議所が所属する地域の未来に残したい広島スポットについて紹介してもらう動画を撮影した。この動画は各地会員会議所の皆様にご協力を仰ぎ、各地域の紹介をするコーディネーター役と、そのおもてなしを受ける他の会員会議所メンバーとで構成した。また、ＹｏｕＴｕｂｅチャンネルで公開された県内１２地域の未来に残したい広島スポット動画の中で紹介された店舗で使える金券１万円分を各地域で３枚ずつ合計３６人に抽選でプレゼントした。

「＃未来に残したい広島スポット〇〇〇〇」の〇の所に動画内で紹介された店舗名を付けた記事をＦａｃｅｂｏｏｋ、Ｉｎｓｔａｇｒａｍ、Ｔｗｉｔｔｅｒに投稿してもらい、その投稿をもって金券プレゼントの応募とした。

検証方法と効果

この事業の検証は各動画の再生数・グッドの数で行う事とした。１０月１２日にＳＮＳの各ページを開設してから約１ヶ月で、ＹｏｕＴｕｂｅチャンネル登録者数は３３人、Ｔｗｉｔｔｅｒフォロワー数２３人、Ｉｎｓｔａｇｒａｍフォロワー数１０１人、合計１５７名の登録・フォローがあった。ＹｏｕＴｕｂｅチャンネル内動画視聴回数は１０４５回になり、平均視聴時間は３分１４秒だった。視聴者の割合はチャンネル登録者が１８．８％、未登録者が８１．２％と登録はしないが、視聴してくださった方が多くいた。新型コロナウイルス感染拡大の影響下で、密になる事を避け、人が集まるという事が難しくなった社会情勢の中であっても、つながりを消すことなく、今までとは違う手法を用いて、事業目的であった県内１２地域の各地会員会議所メンバーとの結束とつながりをさらに強く出来た。また、ＹｏｕＴｕｂｅチャンネルというコンテンツを用いて事業を行った事で、不特定多数の方に広島県内各地の魅力を発信する事が出来、未来に残したい広島スポット動画で紹介された店舗で使える金券をプレゼントする事で、実際にその地域に訪れる方が増え、地域活性の一助になった。

出向理事報告

出向理事　髙村　涼

２０２０年度、公益社団法人日本青年会議所中国地区広島ブロック協議会へ委員長として出向いたしました。
私の出向した組織改革推進委員会では、大きく分けて二つの活動を実施してまいりました。まず一つ目は組織改革の強力な推進、そして二つ目が広島ブロック大会の企画・実施でした。

多くの思いと熱意を持ち臨んだ２０２０年度の出向に向け２０１９年９月に予定者として活動をはじめましたが、２０２０年の年明けにはＣＯＶＩＤ－１９が世界規模で感染が拡大しました。
しかしながら、私たちの委員会では組織改革を強力に推進していく中で脅威をチャンスに変えるべく、（公社）日本青年会議所　組織改革会議より提案された組織改革ショーケース～３つの約束～を県内１２LOMへ拡散、周知をしてまいりました。今までの当たり前を転換し、効率よく活動し、時間を作る中で家族との時間、会社で過ごす時間を作り、時代にそぐわない活動は時代に即した形に変えていく、言わば重要なアップデート時期の活動に携わらせていただきました。

広島ブロック大会は、第５０回という節目の大会という事もあり、時代に即した未来的な大会を目指しました。
ＣＯＶＩＤ－１９の感染拡大により、直前まで開催するか否かの判断に悩まされましたが、皆様の御協力のもと滞りなく実施できました。今回のブロック大会では新たな手法として、事前収録による動画配信、またプログラムに関してはＺｏｏｍにてＬＩＶＥ配信という方法を実施しました。賛否両論ある中で、今後も予見される様々な事態に対し、時代に即した形での開催の一助となったはずです。

予定者段階をふまえますと一年半の期間中に、普段の生活では出会えない新しい仲間と出会え、所属ＬＯＭだけでは経験できないであろう有益で貴重な体験をさせて頂きました。ＣＯＶＩＤ－１９の影響により多くの事業が中止になる中で、どうしたら開催できるか、どうすればこの思いが伝わるか悩む中で考えさせられたのは、やるかやらないかという考えを捨て、どうしたらできるのかという部分を念頭に置き実施に向けて全力で行動する事です。何事も、やらない判断からは何も生まれない、やる判断からだといろいろなアイデアが生まれ、色々な仲間と経験も生まれます。
ＬＯＭが変われば考え方もそれぞれ違います。一緒になって悩んでくれる、いろんなアイデアをくれる、そんな仲間はまだまだいっぱいいます。これから出向の機会があるメンバーには積極的に出向を考えて頂き、違った世界で見聞することも青年会議所ならではの経験だと考えます。
組織改革とはまず意識の改革です。様々な経験をして今後の活動に活かして貰えればと考えます。